

名古屋能楽堂 十二月特別公演



撮影：瀬野雅樹

能

「邯鄲」
(観世流)
シテ 久田勘鷗

舞囃子

「江戸」
(金剛流)
シテ 竹市幸司

狂言

「首引」
(和泉流)
シテ 井上松次郎

能

「通盛」
(宝生流)
シテ 衣斐愛

平成26年 12月7日(日)
午後12時30分開演(午後12時開場)

【「秀吉と能」—のふにひまなく候—】

文禄四年(1595)五月二十四日、伏見城にて、秀吉は能五番を演じ、当時の能界の第一人者である下間少進に批評をさせている。少進が秀吉の〈邯鄲〉をほめると、秀吉は着ていた唐織を少進に与えた。このころ、秀吉は〈邯鄲〉を好んで演じたという。

能〈邯鄲〉は一人生に悩む青年・盧生が不思議な枕を借りて眠ると、勤使が訪れ、皇帝の位を譲ると言う。盧生は皇帝となって栄耀榮華を極め、歓びの舞を舞ううちに、夢覚める。目覚めてみると、五十年の栄華は、粟の飯が炊けるまでのほんの僅かの時間の夢であった—というもの。「人生は夢のように儂いもの」というテーマは、秀吉の辞世の句「露と落ち 露と消えにし我が身かな なにわのことも夢のまた夢」にも通じる。この時、秀吉は五十九歳。案外と天下人の心をしめていたのは「無常」かもしれない、などと想像させる。

ご来場の方に抽選で
素敵なプレゼント!

本公司ご来場の方の中から
抽選で10名様に能楽グッズを
プレゼントします。

*ご入場の際にお配りするパンフ
レットに応募券が入っております。
ご確認ください。
(ご応募の締切は休憩終了まで)



撮影：亀田邦平

